

多自然川づくり取組事例

| | | |
|-------------------------------------|--------------------------------|-------------|
| タイトル : 小田川におけるかわまちづくりの取組について | | |
| 水系/河川名 : 高梁川水系小田川 | 河川分類 : 大河川 | |
| 河川の流域面積 : 2670 | 整備計画流量 : 1700m ³ /s | セグメント : 2-2 |
| 事業 : 災害復旧 | 事業開始年度 | 令和2年度 |
| 目標設定 : 定量的 | 段階 | D(実施・施工時) |
| 課題・目的(主な) : 貴重種、特定動植物の保全、水辺へのアクセス改善 | | |
| 工法(主な) : 掘削(高水敷)、階段工の整備 | | |
| 配慮事項(主な) : | | |

背景・課題、目標設定

〈背景〉

1級河川高梁川水系小田川は、倉敷市真備町を東西に流れる高梁川の支川である。この小田川は、平成30年西日本豪雨において小田川及びその支川である末政川、高馬川、真谷川において堤防決壊により甚大な被害が発生した。

今回、かわまちづくりの取組を行う場所は、小田川左岸3k400の決壊地点を整備箇所として選定し、「真備地区の自然や歴史とふれあう交流空間づくり～未来につなぐ安心・安全のかわまちづくり～」をコンセプトに事業を進めている。

また、被災直後より真備町で被災された地域住民の河川への関心も高まっていることもあり、地域住民の河川への関わりを継続するため、河川協力団体と連携した除草管理手法の取組を進め、水辺空間の継続的な維持管理を目指している。

〈課題〉

1. 水生動物の保護

小田川には、過去に河川敷が水田として利用されていた時の名残りで、河川内に素掘りの水路が残存している。この水路は現在、一部区間ではあるが用水路の機能も有し、かつ多様な水生生物の生息場所となっている。今回の整備では、一部水辺へのアクセス通路の確保が必要となり、水生生物への配慮が生じた。

〈対応〉

今回、水路の改変が必要な箇所については、NPO倉敷水辺の環境を考える会の協力の下、工事前に保護移動を実施した。

2. 河川空間の維持管理

小田川においても、基本的に河川敷の除草管理は行わないこととしているため、新しく整備された河川空間の維持管理について課題が考えられる。公園整備されたエリアは、自治体での管理を想定しているが、周辺のエリアについては除草管理を行わないため、課題が残る。

〈対応〉

河川敷の維持管理については、被災直後から真備町箭田(やた)地区の住民のみなさんが高い関心を持っていた。国として、住民と対話を重ねており、河川協力団体の認定を受けてもらい、河川敷の効率的な維持管理の手法の検討を進めている。検討では、除草回数や、機械や人力による踏み倒しの効果確認を行っている。現在、検討を始めて4年目を迎えているが、植生の変化等が徐々に見られている。

取組内容・対策例(1/2)

【取組事例1】

かわまちづくりの整備

1. 復興防災公園の整備

平成30年西日本号災害で堤防決壊が発生した、3k400地点に人々が交流できるレクリエーションの場として公園整備を行う。公園は、災害時の一時避難場所として活用するほか、様々なイベントができて多目的I広場を河川敷と一体となって整備。



※画像はイメージであり、今後の詳細設計等の結果により変更する可能性があります。



取組内容・対策例(2/2)

【取組事例2】

河川協力団体(やた地区まちづくり推進協議会)と協働による、除草管理手法の検討

1. 除草管理手法の検討

年間の草刈り回数や、踏み倒し方法による、植生の成長具合のモニタリングを実施。

【令和2年度～4年度】

方法①・・・軽トラックによる、タイヤ引き

方法②・・・人力によるトンボがけ

方法③・・・ロードローラーで踏み倒し

【令和5年度】

方法④・・・ロードローラー月2回の踏み倒し

方法⑤・・・ロードローラー月1回+乗用草刈り機で除草

2. マレットゴルフ場の整備

マレットゴルフ場として整備し、利用者の踏み倒し効果で植生が抑えられるかの実証実験を行う。



モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

【かわまちづくりの整備】

復興防災公園を軸とした、周辺の水辺拠点空間(水辺の学校等)や、歴史施設とのネットワーク化を目指している。

令和3年度末まで、小田川堤防の天端道路を、4m→7mに拡幅したことにより、車と自転車の間隔が確保できるようになったため、サイクリング利用者の拡大が見込める。今後、倉敷市がサイクリング用の案内サインの設置も順次進めて行く予定であり、今後の地域活性化が期待できる。

また、広大な多目的広場を整備する事で、災害によって失われた、地域コミュニティの活性化も期待できる。



【除草管理手法の検討】

河川協力団体の、「やた地区まちづくり協議会」では、今後の維持管理の継続化を図るため、一般社団法人ピースポート災害支援センターの助成支援による、バックホウの助成支援も受けている。今後は、地域住民で、重機が活用できおよう重機講習会を重ね、他地域における災害支援も積極的に行えるように、河川敷利用を推進する。



備考